

教校部「特殊講義（信疑決判）」中西昌弘

法然聖人が『選択集』三心章の私積に、信・疑をもって迷（生死）・悟（涅槃）の判決をされた文意をうかがい、その所顕を明らかにし、さらに親鸞聖人がこの信疑決判の文を自身の著述の中に引用し、法然聖人の念仏往生の法門が、信心を根底とした法門であると展開し、信心正因の義を極めていかれた経緯を示し、仏教内における義意を明らかにします。そして『大経』胎化段の信疑得失との所顕の相違を明確にします。

※講義中に、学生による会読（問答形式）を行います。